

「ディスカバー農山漁村の宝」(第6回選定)

第3回有識者懇談会概要

1. 日時：令和元年10月21日(月) 17:10~17:35
2. 場所：総理大臣官邸3階南会議室
3. 出席者：菅内閣官房長官、河野農林水産大臣政務官、北村内閣府特命担当大臣(地方創生担当)、西村内閣官房副長官、杉田内閣官房副長官、西川内閣官房参与、江島内閣官房内閣審議官、牧元農林水産省農村振興局長
林座長、あん委員、今村委員、田中委員、藤井委員、向笠委員、横石委員

4. 概要：

(林座長)

- ・本日は、第6回選定となる「ディスカバー農山漁村の宝」の選定地区及び選定者並びにグランプリ等の選定方法について、御議論をいただくので宜しくお願いしたい。

【事務局説明及び意見交換】

(牧元農村振興局長から、資料に基づき、第6回選定の選定地区及び選定者並びに第6回選定のグランプリ及び部門賞の選定方法について説明。その後、委員からいただいた主な意見は以下のとおり。)

- ・愛媛県の水産高校の取組は素晴らしく、日本の若者に未来を感じた。また、森林は花粉症の発生源と見られていたが、森林セラピーの取組がやっとここまで進んできたのは良いこと。個人部門ができたのも良い。
- ・個人部門は地区ではなくその人の取組であり、活動がより明確になって非常に良く、スターが生まれてほしい。今回の選定は、他業種から若者や女性などの力が入ってきたものや、海外志向の強いものが印象的。また、オリパラの影響もあり農福連携の取組が多く見られたので、この言葉が一般的になるよう努めていきたい。
- ・部門を分けたことで、各々の強みが活かされ、互いに学べる点が顕在化したと感じる。6次産業化や民泊などの取組が進化して、人に話したくなるような独自性が見受けられた。地域と共に成長・持続させていく活動に光をあて、その取組が参考になるよう、情報共有に委員として寄与していきたい。高校生やUターン者など、主体となる人に光が当たり、他の地域の方にも刺激になるだろう。また選定における評価ポイントを示して、今後のアイデアやヒントの例示として波及効果が出せればと思う。
- ・3つの部門に分かれることで評価をしやすくなったのは良かった点。選定事例には優れたリーダーがいるはずであり、そこに補助金や交付金を入れることにより、取組を加速化させることができる。すぐには難しいと思うが、例えば、経済産業省と連携し中小企業の認定制度のようなものに推薦することなどをしてはどうか。また、全国に普及していくために視察先リストを作ってはどうか。

- ・都市農業で東京都の事例が選ばれるのは良いこと、都市の事例が続いてほしい。高校生の活躍も目立って良かったし、また、お寺がイタリアンで精進料理を提供することで、地域活性化を促す新しい取組も興味深かった。「ディスカバー農山漁村の宝」選定で、この国には掘り起こせば「宝」がまだまだあることを実感している。
- ・今回も多くの応募があったのは良かった。地方では成長しているところとそうでないところの格差が大きくなっている。ラグビーの日本代表のように、希望やあきらめない気持ちを持ってもらえるような「ディスカバー農山漁村の宝」であってほしい。そのためには賞の価値を上げたい。
- ・選定事例が素晴らしいゆえに、応募を見送ったという声も聞いている。農山漁村だけではなく東京の事例もあるなど、結果的にはバランスが取れた選定という印象。

(北村内閣府特命担当大臣)

- ・我が国の農山漁村は、残念ながら過疎化や高齢化などの負のイメージが強い状況だが、「ディスカバー農山漁村の宝」で選定される優良事例は、これとは逆のイメージを与え、地方創生にプラスの影響を及ぼすものである。
- ・安倍政権では、「地方の活力なくして日本の活力なし」を基本姿勢とし、地方創生を重要課題として掲げている。本日選定される地区や個人の取組が全国の農山漁村へと広がることで、地方創生に繋がっていくことを期待している。

(河野農林水産大臣政務官発言)

- ・本日の選定により、これまでの5回分と合わせて170を超える「農山漁村の宝」が選定されることになる。これらの選定地区や個人が、今後も輝き続けて行くことが重要。
- ・農林水産省としては、全国各地の農林水産業を発展させていくため、選定された地区や個人を「宝」として表彰するだけでなく、「モデル」として普及していくため、SNSをはじめとした様々な手法を活用した情報発信などに積極的に取り組んでいく。

(林座長)

- ・意見交換を終了する。
- ・第6回選定の選定地区及び選定者並びに第6回選定のグランプリ及び部門賞の選定方法について、了承することよろしいか。

(異議なしの声)

(林座長)

- ・それでは決定とさせていただきます。
- ・閉会に際して菅内閣官房長官から御挨拶を賜りたい。

【閉会挨拶】

(菅内閣官房長官)

- ・まず、今回の台風で農業関係でも大きな被害が発生したことについて、心からお見舞い申し上げます。政府として、一日も早い被災地の復旧・復興に取り組んでいく。

- ・「ディスカバー農山漁村の宝」は、今年度で6回目の選定となり、今回は、農山漁村の活性化と所得向上に取り組む優良事例の31地区に加え、新たに創設された個人部門で5名の選定を決定した。
- ・例えば、「有機栽培の抹茶を22か国、合計5億円を輸出している静岡県の会社」、「稀少な天然わかめを使った新商品を開発し、5年間で売上を10倍に伸ばし、離島の雇用を生み出した島根県の会社」、「地元の農産物を使ったレストランを開業し来客者が年間9.5万人にのぼっている三重県の女性」など創意工夫あふれる取組があった。
- ・今回選定された全国各地の取組について、積極的に横展開を行い、農業の成長産業化と魅力あふれる地域作りを更に進めて行きたい。

【閉会】

(以上)